

伝道の第一戦へ

—二名の卒業生を送り出す—

去る三月十八日午後三時より沖繩祈禱院において、沖繩聖書神学校の第二回卒業式が挙行され、二名の卒業生を送り出しました。

開拓伝道、牧会の責任を負っての学びでありましたが、よく四年間の学びを全うされたお二人、それぞれ、遣わされたところで活躍が期待されます。お祈りを乞う。

●第二期卒業生

藤村幸貴 (星の子学園福音教会)
末吉重明 (宜野湾バプテスト教会)

死に至るまで

藤村 幸 貴

「あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちの

ある人たを牢に投げ入れようとしている。
あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの冠を賜う。 (黙示録二・10)

在学中に私を常に励まして下さったのは黙示二・10の御ことばで「死に至るまで忠実でありなさい」併せて、死に至るまで学びなさい。四ヶ年の間に悪魔は、いつも私に語りかけてきました。六十才も越えて神学校で学ぶのは意味があるのか? このようにして神の御ことばは、私を励まし、四年の年月を支えて下さいました。

また多くの教会陣の先生方の、たゆみない御指導を受けたので感謝な学園生活でした。また新しい友も与えられました。卒業を間近に控えて思うことは次から次へと私をたのしみに導きます。

そして最後に出会う御ことばは、やっぱり「死に至るまで忠実でありなさい」

私はこの御ことばの捕虜であるかも知れない。これからも主に忠実でありたいと願いつつ卒業の感謝としたいものです。

沖繩信徒聖書学校・聖書神学校

土地・建物への

協力献金のお願い

理事 会

主の聖名をほめたたえます。

さて、信徒聖書学校創立以来十五年、聖書神学校一〇年、皆様の祈りと献げものにより、特に、犠牲的な協力によりまして、今日まで発展し成長してまいりました。おかげをもちまして、信徒聖書学校、百余名、聖書神学校五名の卒業生が巣立ち、各教会に大きく貢献し喜ばれています。

一九八八年四月、くすしき摂理のもと私たちの学舎は、由緒ある久米の地から、首里石嶺の沖繩祈禱院へと導かれております。

このような状況の中では、献身者の養成、訓練のためには、せひとも、土地・建物が必要でありました。また将来の発展、すなわち、本校が沖繩はもとより、日本、アジアさらには全世界に福音を宣べ伝えることのためにも、真剣にみこころを求めて祈ってまいりました。

つきましては、敬愛する皆様、この趣旨をご理解くださり、主の尊い事業のビジョンを共に、ご加禱とそして土地の御寄附、ご献金をお願い申し上げます。

◎募金方法

- 一、一口年間 一万円以上
- 二、土地 五百坪以上
- 一、募金期間 一〇年間(一九八八年)〜一九九八年)
- 一、振替口座番号 鹿兒島 四〇三三六七六

◎現状レポート

一昨年十一月頃、各教会、伝道所の諸兄弟の皆様に、趣意書を送りいたしましたところ、早速、愛の献金が寄せられました。

二十二名の方々と、二教会から頂き、たいへん感謝しております。皆様、今後とも御加禱くださってご協力下さる様、重ねてお願い申し上げます。

どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めたと思うところのいっさいを、はるかに越えてかなくて下さることができると、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように。 エヘソ三・20、21

民の上



沖繩信徒聖書学校校長

校長 折田 政博

「神を恐れる、力ある人々、不正の利を憎む、誠実な人々を見つけ出し、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として、民の上に立てなければなりません。」 (出エジプト記 十八章二十一節)

右の聖句は、激務をきわめていた民の指導者、モーゼにエテロの助言であり、「組織化」しなければ、モーゼ自身が過労で倒れるはめになり、又、民意を十分にくめない様になることを恐れて助言した言葉であります。

沖繩信徒聖書学校の発足も、成長して行く教会の良い奉仕者を育てたいとの意図があったのであります。

入学し、卒業して行く諸君が、みんな「良い奉仕者」になってほしいことは、送り出した教会と、教授として奉仕している諸先生方の祈りであり、願いであると申しあげてのをはずれていないと確信

しています。

- 一、神を恐れる人
- 二、力ある人
- 三、不正の利を憎む人
- 四、誠実な人

これらの、まず第一に、クリスチャンであること。ポーン アゲンした回心のはっきりしていること。第二に、罪の支払う報酬は死であり、神の義、神の救いなしに人間は幸福でないことを知っていること。第三に、人間は弱い者であり、「心は熱しても肉体弱く」

祈禱、聖言、聖霊の満たしなしに、力ある働きは出来得ないことを知っていること。第四に、金銭に淡泊で、神と富に兼ね仕えることは出来ず、神の国を求める者を祝福して下さると信じること。第五に、

聖められた品性と生活を大切に、信仰深い生活に不可能のないという聖書の教えを文字通り信じて証詞していること。などがあげられます。

これらの具備した人々を、千人に一人、百人長が十人、五十人長が二十人、十人長が百人、合計、一三一名がリーダーとして必要になります。割合からすると、百名中十三名が不可欠であります。

(2)九十年代に成長する教会とは。今、私達は、九十年代のはじめ、ジョン・ネスピッツは、その著「MEGATRENDS 2000」に、二千年を迎える教会のタイプとして五つの事をあげています。

- 一、回心の基本に立つ事。
- 二、聖霊の働きを受け入れる事。
- 三、TVを利用する事。
- 四、折り、聖書研究グループやアシラムの様な静思の場を作り出す事。
- 五、礼典方法を生み出す事。

これから十年の沖繩信徒聖書学校は、民の上に立つ人々の養成と、新しいタイプのエクレンシア造りに貢献する人材育成の二つにつきるのではないかと思うことである。

はたらき人

沖繩信徒聖書学校
沖繩聖書神学校

沖繩県那覇市首里石嶺4-356 (〒903)
事務局
聖書学校
電話 09893(7)8988
神学校
電話 0988(84)4391

新しい理事・校長選ばれる

— 第16回定期総会 — 報 告



● 信徒聖書学校
国吉 守牧師

一九八九年十一月十三日午後七時三〇分より、沖繩祈禱院において、聖書学校神学校の定期総会が開かれ、協力教会二十二教会中十七教会から代議員三十一名が送られた。

開会礼拝後、折田政博牧師に議長に折田政博牧師を選出し、聖書学校および神学校の諸報告がなされた。

つづいて一九九〇年度の学事計画・予算等について熱心な討議がなされた。更に次期校長の紹介、役員改選がなされた。

● 新校長 (一九九〇年四月、一九九二年三月)

- 信徒聖書学校
二、八〇一、二六三円 (うち協力教会献金七十五万円、特別献金一〇万円)
- 神学校
一、九二〇、〇〇〇円 (うち協力教会献金四十五万円、特別献金二〇万円)



● 神学校
渡真利 文三牧師

- 新理事と担当
理事長 折田政博牧師
副理事長 松田善弘牧師
- 信徒聖書学校担当理事
国吉 守牧師 (校長)
新垣栄市牧師 (事務局)
当銘由正牧師 (財務)
斎藤清次牧師 (学生部長)
松田善弘牧師
- 神学校
渡真利文三牧師 (校長)
運天康正牧師 (専任教授)
古堅宗伸牧師 (事務局)
安里嗣昌牧師 (財務)
宮村武夫牧師
- 一九九〇年度予算
信徒聖書学校
二、八〇一、二六三円 (うち協力教会献金七十五万円、特別献金一〇万円)
- 神学校
一、九二〇、〇〇〇円 (うち協力教会献金四十五万円、特別献金二〇万円)

強く・雄々しく進め

沖繩聖書神学校校長

渡 真 利 文 三

「わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえに恐れてはならない。おのいてはならない。」(ヨシュア一・九)

イスラエルの人々が、カナンの地にはいる時、神はヨシュアに、意味深い励ましと祝福のことばを語られました。

卒業される皆様も、選民がヨルダンを渡って、カナンの地に入っていくのと、同じような情景にあるのではないのでしょうか。そして、ヨシュアに語られた神のみことばは、皆様に対して、同じように神からのおことばなのではと思われます。

イスラエルの人々が、約束の地カナンにおいて、色々の苦難がありました。同じように皆様はどこにおいでになっても、様々な難問、困難や自分の思うようにならないことが多くあるでしょう。そ

のような時、私はもう駄目だ、とくじけてしまうようなことがあるかも知れません。しかし神は、強く、雄々しくあれよ、とおっしゃっておられます。

次に、みなさんが実社会に立たれたとき、ただあたりをながめているのではなく、積極的に、自分の足で踏み取らねば、神からの祝福を得ることはできません。どうか自らの足で踏み取ってゆく積極的な姿勢をもって、戦い抜いていただきたいと思えます。

さいごに、勝利の秘訣は、神がモーセに与えられた律法(みことば)から、右にも左にも曲ってはならないということです。それです。すなわち、実社会で、みことばから離れることなく、律法を守り抜き、勝利者となりますように祈ります。

● わたしの僕モーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。それは全てあなたが行くところ、勝利を得るためである。(ヨシュア一・七)

十一名の兄弟卒業

◆◆◆ 今後の活躍に期待する ◆◆◆

共に入学した十四名のうち十一名が、本日第十五期生として卒業の恵みにあずかります。働きのなごらぬ二ヶ年、ここまでくるのには涙ぐましい折りや努力がなければできなかったことでしょう。

これまでの学びが、さらに高められ高められ生かされて、主と教会にますます仕えていただきたいものです。今後の御活躍に期待します。

- 第十五期卒業生
折田真美恵 (天久神の教会)
神里きみ (那覇バプテスト)
岸本一二 (首里バプテスト)
呉屋文子 (城間ナザレン)
瑞慶覧悦子 (那覇バプテスト)
平良美恵 (沖繩第一聖潔)
高原幸子 (首里バプテスト)
田畑風男 (胡屋バプテスト)
渡久山京子 (首里バプテスト)
松田豊子 (牧港中央バプテスト)
本仲康子 (城間ナザレン)



瑞慶覧 悦子
聖書学校に入学して、あつという間に二年が過ぎてしまったという感じです。聖書学校での学びはそれぞれの科目が大変興味深いものでした。教会での集会だけでは学ぶことができないことを多く学ぶことができた感謝でした。

田畑 風男
多くの先生方に祈られた学び場で、いつも聖書の御言葉の学びができました。研究と教理の時間には、これからの聖書の学びに対する姿勢と視野があたりし与えられました。愛する兄弟姉妹との交わりにも感謝します。諸先生方の神さまからいただいた豊かな賜物を用いての楽しい授業もすばらしい思い出となりました。

本仲 康子
授業の中で御言葉に励まされたり、学びの友に励まされたりして二年はまたたくまに過ぎてしま

ました。授業だけでなく、クリスマス祝会や交わり会など楽しい思い出もいっぱいです。

宿題に追われたり、赤点をもらったりとショックなこともありましたが、今では楽しく思い出されます。労をとってくださった先生方、また導いて下さった主に感謝します。

二年目終盤にさしかかって、もっと知りたい学びたいと思うばかりです。というのは、最近になって学んで来たことが実になりつつあるように思うからです。家庭生活に余裕があったら、もっと学びたい感じです。

特典と思うことは、教派を越えて多くの先生方に教えていただいたこと、親しみが深くなったことです。

折田 真美恵
「信徒聖書学校なんて、信仰的に素晴らしい人が行く所！」なんて思っていた私が同校に入学させて頂けた事が何よりの恵みでした。丁度、靈的にも飢え渴きを覚えていた時でしたので、ひとつひとつの学びが、ただ、ただ感謝でした。クリスチャンホームの中で育ってきたはずなのに、私の知らない

聖書の世界が、毎週々説かれていくことに喜びを感じる一年間でした。二年生になると、少々、魚け心が出て来て、自分に負けそうになることもありましたが、そういう時にタイミング良く、励ましのメッセージが与えられて、ここまで来ることができました。

卒業を間近に控えて、「もうすぐ終わるんだ!!」という喜びと、「ここまでやってこれたんだなあ」という感傷に浸っている日々です。お忙がしい中で、幸いな学びの時を備えて下さった諸先生方に心から感謝しています。ありがとうございます。

- 一九九〇年度入学合格者
- 一九九〇年度の入試が行われ、次の十三名が合格しました。
- なお、入学式は四月三日(火)午後七時半より沖繩祈禱院で挙行いたします。
- 栗国聡子・翁長桂子・蔵元一志 (以上那覇バプテスト)・石川勝則 (恩龍教会)・平良康子 (宜野湾ナザレン)・高橋芳子・又吉英子・三輪江美 (以上城間ナザレン)・前川増美 (石嶺バプテスト)・前栗蔵恵子 (星の子学園福音)・又吉和子 (コザバプテスト)・花城明美 (栄光教会)・仲間幸子 (キリストン・ナザレン)